

自治協ニュース

第0102号
発行者
八本松住民
自治協議会
R01.06.20

八本松自治協 日頃の防災活動が減災に繋がる 災害の発生機序を記録

県内で注目 八本松の防災

土砂災害防止 県民の集い

7.06豪雨災害の地域対応を発表

冒頭のあいさつで湯崎英彦知事は、「県民の皆様と一丸となって復旧・復興に取り組んでいるが、被災地の復旧には一定の時間がかかる。被災地の皆様には現状の危険性を十分に認識していただき、早めに避難をしていただくような取



湯崎英彦知事

広島県と東広島市は5月31日、東広島市芸術文化ホールくららで「土砂災害防止県民の集い」を開催した。この集いは、毎年出水期を前に県内の自主防災リーダー等防災関係者が集まり防災の知識や意識の向上のために開かれている。今年も、特に一年前の西日本豪雨災害の教訓を活かした地域の取組みをテーマに約450名の参加者のもとに開かれた。

また、高垣広徳東広島市長は「昨年のような大規模な災害では、行政だけの対応に限界がある。自助、共助が重要で地域防災力の一層の強化に取り組んでいく」



高垣広徳市長

組みの一つとして警戒レベルを導入した」と述べた。

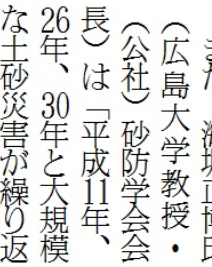
止県民の集い



土久岡八本松自治協会長

と述べた。事例報告で、土久岡章治氏（八本松住民自治協議会会長）は、「今回の災害で地域の自主防災組織が有効に働くとともに、日頃の防災訓練や防災マップ等が役立つ。立ち住民の方の適切な避難・減災行動で大きな被害を出さなかった」と報告。また、「災害発生当時の気象、増水、土石流、河川氾濫、被害状況等一連の過程をDVDにまとめ、地域ごとの防災講演会に活用し、住民の防災意識の向上に努めるとともに、関係機関にも配布し、広域防災を考慮した災害復旧事業の推進にも繋がっている」と

また、海堀正博氏（広島大学教授・（公社）砂防学会会長）は「平成11年、26年、30年と大規模な土砂災害が繰り返して起き多くの人命が失われている。土砂災害警戒区域等の情報を活かし、安全な避難ができるよう適切なタイミングと方法で自発的な避難行動を」と呼びかけた。



海堀正博教授

報告した。基調講演で、栗原淳一氏（国土交通省砂防部長）は、「今回の避難行動を解析した結果、ご近所の人呼びかけや行動が避難のきっかけとなっており、地域のコミュニケーション等による避難の声掛け訓練をしていただきたい」と述べた。

6月2日早朝、八本松みなみ地区自主防災会は恒例となっている災害時の安否確認訓練を実施した。この訓練は地域から犠牲者を出さないため、平成27年度から始められた災害時の安否確認訓練で今回は9回目。年2回行われる美化作業の前に行われるため、参加者も多く今では当り前の活動となっている。この日も337世帯の安否（88%）が確認された。各集合場所（24カ所）では班長が安否確認台帳で集まった住民の方の家族の安否を確認し記録。さらに、美化作業後、全員集合し「いざという時どうするか」を唱和し、災害時のお互いの役割や行動について話し合わ

災害時の安否確認 恒例化 八本松みなみ地区 自主防災会

6月2日早朝、八本松みなみ地区自主防災会は恒例となっている災害時の安否確認訓練を実施した。この訓練は地域から犠牲者を出さないため、平成27年度から始められた災害時の安否確認訓練で今回は9回目。年2回行われる美化作業の前に行われるため、参加者も多く今では当り前の活動となっている。この日も337世帯の安否（88%）が確認された。各集合場所（24カ所）では班長が安否確認台帳で集まった住民の方の家族の安否を確認し記録。さらに、美化作業後、全員集合し「いざという時どうするか」を唱和し、災害時のお互いの役割や行動について話し合わ

災害時の安否確認 恒例化 八本松みなみ地区 自主防災会

突然 大地震が発生したとき

- 唱和（班の集合場所へ集合）
 - 隣近所で助け合おう～みんなで無事か声をかけ合おう
 - 班長は安否確認台帳で家族の状況を確認しよう
 - 近所で行方不明者がいないか確認しよう
 - 軽いケガなどの処置はお互いに協力し応急救護をしよう
 - リーダー不在の時は、集合した方が協力して状況を確認し、救出・救助・消火活動をしよう。ただし身に危険が及ぶような行動はやめよう
- 災害時の初動を書かれたチラシ（別に身を守る行動もある）



みんなでチラシ（左）を唱和する八本松南地区の皆さん

これから出水期 万に備え自分の身は自分で守る意識を

協自治員 治委員 自防災 住民防

出水期に備え土嚢400個作成 VRで防災疑似体験

八本松西 自主防災会

東広島市長 災害復旧状況を視察

応急復旧状況を確認・意見交換

目黒部 5丁開流 西土池 八本松 八本松記



現地で土久岡会長（右）の説明を受ける高垣市長（左）場所は下図H地点

宗吉南地区土砂災害警戒区域

大山川応急復旧：H30.07.28
大山川調査：H31.04.22
記念池調査：H30.10.02
記念池調査：H31.01.22



東広島市高垣市長は6月4日、昨年の西日本豪雨から一年が経過し、今年の梅雨入りが近づく中、市内の主な被災地（八本松、志和、黒瀬、安芸津町内6力所）を対象に現況を視察し、地元関係者と復旧の課題について意見を交換した。

八本松地区では宗吉地域で発生した土石流の現場で、八本松住民自治協や地域の関係者（8名）は住宅地に土砂が流れ込んだ被害の状況を伝えるとともに、土砂災害警戒区域等危

険地域内の住民の安全な避難場所確保が重要な課題であることなどを伝えた。この後、市長は宗吉の最も西で発生した土石流（記念池に流入）の渓流に林野庁直轄治山事業で応

急復旧されている状況などを視察した。視察後、市長は、「この現場も応急対応されているものの、下流域には住宅街がひかえている。これから出水期に向い、土嚢対策や現場を日常的に見回る等被害が起きない対応をしてほしい。また、避難情報が発令された場合、住民の皆さんには声をかけ合って避難するなど、自分の身は自分で守ってゆく意識をこれからも持っていたらどう願います」と述べた。

八本松自治協・防災委員会も早速この地域の避難対策を再検討する。

八本松西地区（宗吉）自主防災会は5月19日、宗吉第一集会所で東広島市消防署西分署の協力を得て春の防災訓練を行った。

この日は地域の方50名が参加され、VR（バーチャル・リアリティ）での防災疑似体験やAEDと心臓マッサージ、土嚢作りの講習を受けた。



土嚢作りに汗を流す八本松西の有志



心臓マッサージの訓練を受ける参加者

た。この土嚢作りに当たった有志は、400個の土嚢が数年間には使用できるような保管方法等を土夫、地域内の2力所に土嚢を配置した。この土嚢を使われることがないことを祈り解散した。